

師走はあっという間に慌ただしく過ぎていくでしょう。みなさん如何お過ごしでしょうか？今年一年、私たちは、どんな出来事に出会ったのか、振り返ってみたいものです。

コロナも五類に移行されたものの完全に収まった訳ではないのです。インフルエンザのように長く付き合うしかないのでしょうか。夏は年々暑くなるばかりです。地球は悲鳴をあげています。畑の作物は北でも作れるようになったり、海も南で捕れていた魚が北上するようになったりと、将来を心配するのは、私だけではないはずです。

先日ちょっと悲しい新聞投稿を見ました。児童発達支援施設に通う七歳の子を連れ病院へ行った時のこと、障がいがあるため大人のようにじっと椅子に座ってはいけません。母親は何度も我が子を注意しましたがいう事を聞きません。その時、同じ待合室にいた患者さんから、かなり激しい口調で叱責を受けたそうです。子どもはおびえ、母親は「すみません」と何度も謝るしかありませんでした。「親のしつけが悪いからだ」と決めつけられ、とても悲しい思いをしたそうです。これでは、また子どもを連れて病院に行くのをためらうでしょう。子どもの騒音や行動が不快だった気持ちは分かります。でも怒鳴らないでほしかったです。将来のある子どもたちを、もっともっと社会が大人が寛容なまなざしで見守っていて欲しいものです。

子どもの不登校や引きこもりが増えてきている昨今、札幌の小学校の特別支援学級では教諭による不適切な言動と行動によって、不登校や休みがちになっている問題が起きています。授業中に児童の座る椅子を蹴ったり、給食の時間に別の教諭と二人で児童の体を押さえたりすることもあったという。この教諭が児童に厳しく叱責することもあり保護者によると、この教諭を恐れ次々と不登校になったり、他の学校に転校した児童もいたという。子どもたちの中には虐待を受けた子どもと同じような解離症状がでたり、先生が怖いと学校を訴えて休むようになった子どももいるとのこと。さらに不登校の子どもを自宅まで迎いにいき抵抗する子どもをむりやり車に乗せて学校へ連れていく、又難しい宿題を一年間に1280枚ものプリントを出したりと保護者は怒り心頭、この教諭の行為は絶対に許せないし、教壇に立つ資格はないと言っています。この問題は人ごとではありません。はじめのいっぽも、このことを肝に銘じて一人ひとりの大人が真剣に子どもたち向き合っていかなければなりません。

最後になりますが、はじめのいっぽの設立を、わか子先生と一緒に副代表理事としてご尽力頂きました安田正雄さんが11月8日お亡くなりになりました。本当にいっぽのことを思い、ご協力を賜りましたことに感謝申し上げます、ご冥福をお祈り申し上げます。

代表 石橋 和久



12月のスケジュール

日時	行事
12月18日(月)	定例会議
12月22日(金)	クリスマス会
12月26日(火)	もちつき大会
12月30日~1月4日	はじめのいっぽ正月休み

寒さ対策および雪対策を考慮し、アウターウェアをご用意いただく季節となりました。日々の天気により必要なウェアは変わりますが出来る限り外活動に適したウェアの選択をお願い致します。

小中学生編



11月1日は、いっば創設者のわか子先生の命日です。一、二年生は生前のわか子先生に触れ合うことができなかったのですが、みんなが今ここで仲間になることができるのは、はじめのいっばを創ってくれたわか子先生のおかげです。感謝の気持ちを持ちながらムービーを鑑賞しました。



今年の11月は暖かい日が続き、着ぶくれせずに思いっきり体を動かしている様です。そうは言っても日が落ちる頃の風は冷たく季節の変わり目を五感で感じながら広場を走り回っています。存分に走り回った後の室内では、おやつ作りのお手伝いを進んでやってくれたり、裁縫にいそしんだり、細かい切り絵の制作をしたりと外と室内でのメリハリのある活動を自ら進んで楽しんでいます。



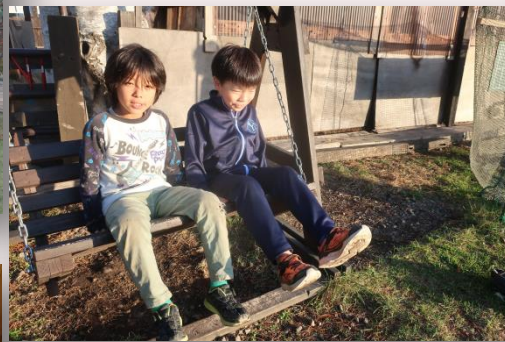
土曜日のいっばは、学校が休みということで子どもたちも午前中からのんびりと活動が始まります。朝みんなが揃うまでの間の自由な時間では学校が違う友達同士の情報交換や、スタッフと遊んだり表情も穏やかです。「腕相撲しよう」と子どもたちから誘われ、今はスタッフの圧倒的な強さですが、「あと何年でこの差が逆転するのかなあ？」と子どもの手を握りながら思うのでした。



いっばは冬に向けて準備万端・・・寒い外もイルミネーションで暖かいいっばを演出し、楽しい外遊びができる雪を待っています。。



11月の日常ショット



ひつじ組 編 (未就学児)

～11月の活動～

すっかり寒くなりましたが、元気に戸外活動を満喫し、めいっぱい自分自身を發揮しているお友達！

時には物を取ったり取られたりトラブルもありますが、取った方、取られた方の子どもの声を聴くことで、自分でどうすればよかったのかを気付くことが出来、素直に謝れたり、「かしてくれる？」を言えたりとてもスムーズです。大人はどうすればいいのか答えを知っているけれど、子供に自分で考える力を身に付けさせてあげたいものです。



“芸術の秋”三人の描画活動に熱が入っております！ 室内で「お絵かきしよう」と言っても乗らないお友達も、体を十分に使って遊んだ後は、素晴らしい絵が描けます。大人も、机に向かってパソコンとにらめっこしていても、いいアイデアが浮かばないときには、少し外を散歩して広い景色に目を向けて、気分転換をすると、ハッとするようないい考えが思い浮かぶのと一緒にかなと思います。広い広場のあるはじめのいっぽの環境に感謝の気持ちでいっぱいです。

